



厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業 令和8年度IDCL（長期） 7月・8月の研修



（寄稿）危機管理・運営局 企画調整部政策研究課研究開発連携室 佐藤瞳

実践研修 （OJT）

感染症危機管理リーダーシップ研修（IDCL）では、感染症危機管理に関連する機関の役割や業務を理解し、感染症危機時における分野横断的な調整力をつけることを目的に、実践研修（OJT）を実施しています。

5月から7月にかけては国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所において研修を行い、7月には研修の集大成として成果発表会を開催しました。研修生3名は「国立感染症研究所におけるOJTでの学び」をテーマに発表を行い、それぞれが感染症対策の最前線で得た知識や経験を共有しました。

8月からは国立国際医療センターでの研修が始まり、臨床現場における感染症対策やAMR（薬剤耐性）対策について学びました。AMR臨床リファレンスセンターでは、各研修生の所属自治体のAMR対策の現状を分析し、自治体感染症予防計画への提言を検討するなど、実践的な課題にも取り組みました。

7月 国立感染症研究所



31日 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター発表会のようす

8月 国立国際医療センター



12日 AMR臨床リファレンスセンターでのOJT



20日 国際感染症センターでのOJT



OJT中の研修生たち

外部講義

IDCLでは、感染症危機時の対応事例やリーダーシップの在り方を学ぶことを目的として外部講義を実施しています。7月・8月に実施した外部講義を紹介します。

「環境保健」日本住血吸虫症

7月30日、日本住血吸虫症の終息をテーマにした講義及びクロストークを実施しました。山梨県等で甚大な被害をもたらした「地方病」に対し、原因究明から水路のコンクリート化まで、住民・医療・行政が一体となって取り組んだ歴史が紹介されました。過去の取り組みから得られた「予防の徹底」や「行政の正しい理解」の重要性は、今後の感染症危機管理を担う研修生にとって大きな学びとなりました。



研修の様子



左から、講師：葉袋勝先生（元山梨県衛生公害研究所 副所長）倉持利明先生（公益財団法人目黒寄生虫館 館長）梶原徳昭先生（元山梨県衛生公害研究所 微生物部長）座長：岩橋慶美先生（広島市西区厚生部兼健康福祉局保健部 医務監/令和7年度IDCL(短期)修了生）近藤徹先生（国立健康危機管理研究機構 危機管理参事）

「公衆衛生総論」

8月26日、「公衆衛生総論」をテーマとした外部講義を実施しました。国内外で豊富な公衆衛生の実務経験を持つ岡部信彦先生が登壇し、コレラや脚気の歴史的疫学から、O157対応を機に設立されたFETP（実地疫学専門家養成コース）の歩み、さらには麻疹や風疹の排除、ポリオ根絶に向けた最前線の軌跡までを解説いただきました。単なるデータ収集にとどまらない「現場への情報還元」の重要性や、感染症対策における人権配慮など多角的な論点が示され、研修生の今後の実践に向けた深い洞察を与える時間となりました。



研修の様子

講師：岡部信彦先生（神奈川県川崎市健康安全研究所参与）
座長：平城翔大先生（柏市健康医療部保健予防課 / 令和7年度IDCL(短期)修了生）